

市街地における小径(こみち)の形成に関する研究 ～岐阜市内を対象として～

岐阜大学 ○堀場 俊秀
 岐阜大学 出村 嘉史

1. はじめに

区画整理が進む市街地に、歩行者のみが通行可能な小規模な通路が残されている場合がある。こうした小径は、単に車との接触を避けて移動することを可能にするだけでなく、人の目に細部まで触れやすく、領域感が強いために、周囲の生活者が積極的に手を入れることを誘発し、まさに人間のスケールを取り戻す存在となる可能性を秘めている。実際に幅員を広げるために私有地が部分的に提供されたり、住民によって脇に草花が栽培されていたり、垣根や小さな祠が整えられていたり、広い道とは異なり既に生活に密着している場所もある。

本研究では、住宅街が発展していく中で小径がどのように形成されてきたのかを明らかにするとともに、獲得された小径の構成と利用の実態を探ることを目的とし、市街地活性化のための新たな価値の発見を目指す。

2. 小径の定義

都市細街路の形成過程と利用実態に関する研究^{1) 2)}が既に行われている。これらの研究では細街路の減少は社会背景とともに物理的要因があるのではないかと考え、街区の形態が細街路形成に与える影響を把握することを目的としている。本論においても同様の細街路を対象とするが、街区の中に入り込む歩行者ネットワークの部分としての特性に着目し、市街地にて歩行者が通行可能であり、通り抜けが可能であるものを小径と定義した。

3. 研究手順

本研究は以下の手順で進める。

1) 敷地変遷調査

該当場所の形成プロセスを把握するために、地方法務協会所蔵の旧土地台帳や旧公図を調査し小径やその周辺の土地の変遷を把握する。旧土地台帳は明治20年代頃から記載が始まり、昭和34年に新しく台帳がつくられるまでの間の地番、地目、沿革や所有者が記載されている。旧公図は旧土地台帳に記載されている地番の区画が記載されている。



図.1 岐阜市街地における小径の位置

2) 空間構成調査

現地における簡易測量を行い、小径の形成している空間要素を明確にし、断面図・平面図などの図面として記録する。

3) 形成に関する意図と利用実態調査

小径の形成にどのような意図があったのか当事者に確認する。また、周辺に住む人に利用実態を聞き取り調査を行う。

4. 調査対象例

本稿では、図.1に示す①の川原町を例とする(図.3参照)。川原町は江戸時代より長良川の豊富な水資源の恩恵を受け、港町として栄えてきた。上流より木材や美濃和紙の陸揚げが盛んに行われ、それらを扱う問屋町として栄えてきた。現在も昔ながらの日本家屋が軒を連ねている。

現在、この小径は導入部分が川原町における本道

に繋がっており幅員は4mほどあるが、小径に隣接する建物がせり出している部分があり、幅員が2mほどになっており自動車などの交通を防いでいる(図.4参照)。また、建物の裏手側にあたる部分では、周りの土地よりも低くなっている、更に塀や石垣に囲まれているため、自動車などは進入不可能である(図.5参照)。

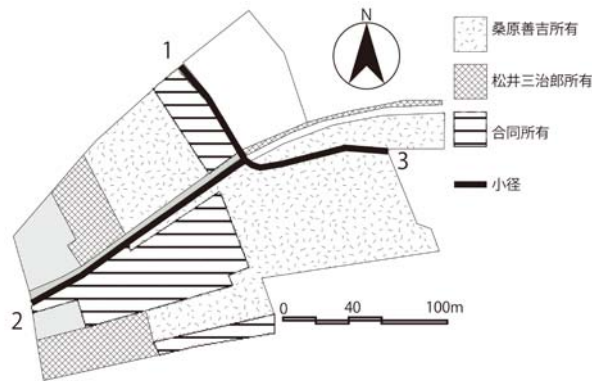


図.2 所有者(明治26年)

旧土地台帳などの資料から把握される敷地の変遷の要点は、以下のとおりである。

- 1) 小径周辺の土地は桑原善吉と松井松井三治郎が所有していた。小径2,3の南側一帯は田畑,北側は宅地であった。
- 2) 小径1は宅地であったが昭和9年に内務省に上地され現在の状態となっている。
- 3) 小径2は、小径が形成されて旧公図上に描かれた際に該当していた地番が失われたものと思われる。ただし、旧公図に記載されていない地番の旧土地台帳が存在するため、この部分が小径に割り当てられたことが示唆される。その土地は桑原善吉と松井三治郎の所有であり、その地番は現在の小径周辺の地目番号に付属するため、周辺の土地より切り取られたものと予想される。
- 4) 小径3は旧土地台帳上には存在しておらず、区画も旧公図とは異なっていた。しかし、一帯を合併した後分割した際に小径を設けたと推測される。現在は公園になっているが、当時の小径跡がそのまま遊歩道となっている。

以上のことより、小径2,3は桑原善吉と松井三治郎所有の土地運営に関わり形成されてきたことが明らかになった。これらの人物は、近代岐阜の都市形成史においても重要人物であり、彼らに注目すると、現在につながる繊細なまちづくりへの視座が確認されるだろう。

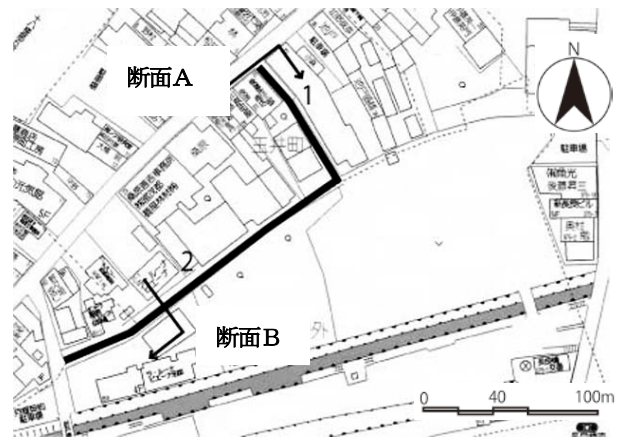


図.3 川原町周辺と小径



図.4 断面図A



図.5 断面図B

5. おわりに

今後は、今回と同様な調査を残りの10箇所で行い、小径独特の形成過程を知ることにより、今後の市街地における都市計画に盛り込んでいける考察を行っていきたい。

参考文献

- ¹ 樋口忠彦, 木戸雄一, 鈴木孝弘: 日本建築学会北陸支部研究報告集, (36), 411-414, 1993/7/29
- ² 吉本正信, 八木沢壮一, 吉村彰, 細田義和: 学術講演梗概集.F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 185-186, 1988/9/1